

ケアする人の ケアセミナー

in こうち

～共助のあるまちづくり～

「ケア」という言葉をご存知でしょうか？

社会のなかで暮らすことや地域のなかで共生していくことは、
誰かをケアし、誰かにケアされる経験の積み重ねです。

家族介護をしている人、病者を世話している人、
医療や福祉にたずさわっている人、

子育てしている人、誰かをケアしている人も、

この世に生を受けたときから人と人との豊かな関係の中に生きています。

これからの地域社会は、助ける／助けられる、世話する／世話される、

といった関係が分断することなく、

多様な人々が助け合い、お互いに生き合うことが求められるのではないのでしょうか。

このセミナーでは、ケアという関係を通して、

地域と共に生きている人たちの実践から学び、語り合います。

2022年

日時 **3月6日**

10:00～16:45(受付9:30～)

会場

高知県立ふくし交流プラザ
多目的ホール及び研修ルーム

〒780-8065 高知県高知市朝倉戊 375-1 ☎088-844-9234

入場無料 要申込み

先着100名様(ソーシャルディスタンスを保つため)

※お申込みは2月28日(月)までとします。
尚、100名になり次第切らせていただきます。

■主催：一般財団法人住友生命福祉文化財団、一般財団法人たんぼぼの家 ■運営主体：「ケアする人のケアセミナー in こうち」実行委員会

会場案内



- JR高知駅から
①路面電車に乗車、はりまや橋で下車、とさでん交通バスの堺町バス停から「X3天王ニュータウン」「X4八田」「X5高岡」行きのバスに乗車、朝倉第二小学校前で下車。
②タクシーで約20分

- JR朝倉駅から
①とさでん交通バスの「Y1学芸高校」「Y2天王ニュータウン」「Y3八田」「Y4高岡」「Y5須崎」「Y6宇佐」行きのバスに乗車、国立病院前で下車、バスの進行方向から見て左方向(南)へ徒歩約10分。(バス停留所の信号を左折)
②タクシーで約7分

会場の駐車スペースには限りがあります。

お申し込み

下記申込用紙に必要事項をご記入いただきFax、郵便、E-mailでお送りください。尚、お申し込みの際は「ケアする人のケアセミナー申込」と明記してください。

Fax、電話、郵便でのお申し込み及びお問合せ

「ケアする人のケアセミナー in こうち」実行委員会事務局
☎780-0822高知市はりまや町3-16-8 アートセンター画室内
☎088-878-8765 Fax088-878-8685

E-mailでのお申し込み及びお問い合わせ

「ケアする人のケアセミナー in こうち」奈良事務局
☎630-8044奈良市六条西3-25-4 一般財団法人たんぼぼの家内
E-mail: carecare@popo.or.jp ☎0742-43-7055

インターネットでのお申し込み

「たんぼぼの家」ホームページ(<http://tanpoponoye.org/>)内「ケアする人のケアセミナー in こうち」からお願いします。



住友生命福祉文化財団 Presents

ケアする人のケアセミナー in こうち 参加申込用紙

FAX: 088-878-8685 (参加申込受付係)

所属(活動先、活動内容などをお書きください。特になければ記入不要です)					
(ふりがな) 氏名					
住所(□自宅 □活動先) 〒					
TEL(□自宅 □活動先)	FAX(□自宅 □活動先)	E-mail(□自宅 □活動先)			
昼食(弁当)申込	<input type="checkbox"/> 申し込む	<input type="checkbox"/> 申し込まない	※代金(一人/600円)は受付時に徴収します。申込メ切▶2月28日(月)		
分科会	第1希望	<input type="checkbox"/> 分科会①	<input type="checkbox"/> 分科会②	<input type="checkbox"/> 分科会③	<input type="checkbox"/> 分科会④
	第2希望	<input type="checkbox"/> 分科会①	<input type="checkbox"/> 分科会②	<input type="checkbox"/> 分科会③	<input type="checkbox"/> 分科会④

※ご記入いただいた基本情報は、本セミナーの受付事務においてのみ使用させていただきます。

※分科会は受付先着順のためご希望に添えない場合があります。あらかじめご了承ください。

※新型コロナウイルス感染拡大やその他災害等の理由でセミナーの開催方法を変更または中止する場合は、電話、FAX、E-mail等で連絡します。またウェブサイトでも告知します。

ケアする人の ケアセミナー

in こうち

9:30 受付開始

10:00 オープニングセレモニー

10:10 キーノートスピーチ

ケアは本来、お互いの存在に根ざした関わり合いを意味します。人が人として生きていくうえで欠かせない、世話、配慮、いたわり、気づかいといった日常行為に置き換えることもできるでしょう。しかし、一般的にケアは介護や介助という意味に捉えられがちで、専門化、制度化の一途をたどっています。人が人として関わりあう、本来の「ケア」について考えたいと思います。



播磨 靖夫
一般財団法人たんぼの家理事長

新聞記者を経てフリージャーナリストに。わたぼうしコンサート、エイブル・アート・ムーブメントを生み、1999年からケアの文化の創造をめざし「ケアする人のケア」に取り組む。平成21年度芸術選奨文部科学大臣賞受賞（芸術振興部門）

10:30 講演／いのちの世話:その1

「誰もが自分らしく暮らせるまちづくり」

急速に進む少子・高齢化、単身世帯の増加等により、地縁・血縁などに基づくこれまでのコミュニティは失われ、地域力が弱まりつつあります。人と人のつながりは希薄になり、ケアする人もケアされる人も社会的に孤立しがちです。在宅での看取り、子育てなど、ご自身の経験をもとに、共助のまちづくりに向けて、今地域に何が求められているのかを語ってまいります。



池田 牧子
高知県いの町長

旧伊野町役場に勤務するが一度退職、1993年夫の病気を機に再び職員となり、町の特別養護老人ホーム所長などを歴任。2016年よりの町長、高知県内34市町村で唯一の女性首長。

11:30 講演／いのちの世話:その2

「生命体としての病院 ～痛みを希望に変換するアートの力～」

医療とアートは対立するものではありません。父性と母性のように補完し合い循環させることで、そこにまた見たことのない病院像が立ち上がってくると信じています。



森 合音
四国こどもとおとなの医療センター
ホスピタルアートディレクター
NPOアーツプロジェクト理事長

大阪芸術大学写真学科を卒業、2005年富士フォトサロン新人賞を受賞、写真家として活動。2005年独立行政法人国立病院機構香川小児病院での壁画制作をきっかけにアートディレクターとして同病院勤務。2012年四国こどもとおとなの医療センター建設時、病院全体のアートディレクションを担当、現在ホスピタルアートディレクターとして同病院勤務。

12:30 昼食&休憩

※お弁当を希望される方はお申し込みが必要です。(2月28日(月)×切／お弁当とお茶600円) 参加申込用紙にご記入ください。

13:30 「きっと明日はしあわせ色」コンサート

堀内 佳

シンガーソングライター

高知を拠点に全国各地でコンサートを実施している四万十市生まれの全盲のシンガーソングライター。2012年、自伝的エッセイ「もーもの歌たね きっと明日はしあわせ色」が第57回高知県出版文化賞を受賞、また昨年度、人権意識向上に貢献し共生社会実現に向けた活動が評価され法務大臣表彰(ユニバーサル社会賞)を受賞する。高知県観光大使、四万十市観光大使。



14:00 休憩

14:15 分科会

※右ページ①～④のいずれかを選択してください。受付先着順のためご希望に添えない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

16:00 まとめ

進行／中島 香織(一般財団法人たんぼの家事務局長)
4つの分科会の代表者が登壇し、分科会の報告及びセミナーのまとめを行います。

①小林 大祐 ②西村 直之 ③後安 美紀 ④西村 高宏

16:45 お疲れさまでした!

分科会 ①

ケアとテクノロジー

テクノロジーが飛躍的に発展している今、ケアの現場とテクノロジーの関係性があらためて問われています。この分科会では、現場で大切にしたいことを深く考えながら、技術を活用している人たちの実践的な取り組みから学び、これからのケアのありようについて語り合います。



報告① 吉岡 由宇

社会福祉法人福智会特別顧問／Abstract合同会社代表社員
物理学者から特別養護老人ホームに転身し、食事や入浴など介護記録を簡単入力できるシステム「Notice」を開発。「介護のありたい姿」を話し合いながら現場に技術を取り入れるプロセスは、技術を使う側の考えを深めている。



報告② 林 園子

一般社団法人CTリハビリテーション研究会代表理事／ファブラポ品川ディレクター／作業療法士
3Dプリンタなどデジタル機器を備えた「ファブラポ」は世界1,500ヵ所以上のネットワークがある市民工房。ファブラポ品川は作業療法士がいる先駆的な工房で、つくる楽しさとケアの新しい関係が生まれている。



コーディネーター 小林 大祐

社会福祉法人わたぼうしの会・Good Job!センター香芝スタッフ
アート・デザイン・福祉など領域を超えて仕事を生みだす「Good Job!センター香芝」に所属。デジタル技術×福祉のこれからの関係をつくるプロジェクト「IoTとFabと福祉」を全国の施設と協働している。

分科会 ③

食卓共同体 ～食を通して人と人をつなぐ～

核家族化やライフスタイルの多様化などによって、家族がそろって食事をする機会が減ってきています。また、一人暮らしの高齢者や共働きの家庭が増え、孤食は社会問題にまで発展しています。「食卓」はコミュニケーションの場、近年増えつつある子ども食堂やお年寄り会食などの取り組みを通して、「食」を通じた人と人のつながりに関して語り学び合います。



報告① 曾我 懐愛

高知県高齢者福祉生活協同組合専務理事
1997年より「寝たきりにならない、しない」「元気な高齢者がもっと元気に」「一人ぼっちの高齢者をなくそう」をスローガンに、配食事業、介護保険事業、宅老所事業の他地域活動を展開している。



報告② 上田 善道

NPO法人食と健康を学ぶ会理事・リハビリキッチン部会長
高知県本山町では、地域の高齢者が集まりそれぞれができることを持ち寄って助け合いながら、食を介した地域の健康づくりとしてリハビリキッチンによる独自の地域づくりに取り組んでいます。それをつなぐ一番の役目はいっしょに食べることです。



コーディネーター 後安 美紀

一般財団法人たんぼの家スタッフ
2017年より一般財団法人たんぼの家のスタッフ。知的財産権を活用しながら障害のある人のアート活動を支えるプロジェクト等に従事。料理のレシピには著作権が発生しないことを知り、あらためて「食」の公共性を自覚する。

分科会 ②

依存問題と家族

依存問題は、本人として家族として誰もが経験するかもしれないものです。問題の解決には、本人にも家族にも適切なケアが必要です。ここでは、依存問題を理解するとともに、私たちの課題として、何が出来るのかを学び合います。



報告① 特定非営利活動法人 高知ダルク

依存症当事者スタッフ・あや、精神保健福祉士・さとや
高知ダルクは、依存症(主に薬物)からの回復支援を目的とし、当事者同士の共同生活の中で仲間と共に「使わない生活」を身につけ社会復帰を目指す中間施設です。



報告② 秋永 恭良

特定非営利活動法人高知県断酒連合会 南四国断酒会会員
アルコール依存症当事者。ピアサポート活動をベースに、依存症問題に関する様々な啓発活動に参加しながら、リカバリーの道を歩んでいる。



田辺 司乃

特定非営利活動法人高知県断酒連合会 南四国断酒会家族会員
夫のアルコール依存症罹患により断酒会に出会う。例会通いを続けるうちに、自分自身の心のケアの場所だとも気付く。



コーディネーター 西村 直之

認定NPO法人リカバリーサポート・ネットワーク代表理事
精神科医。診療と並行して依存症の予防・回復支援をライフワークにしている。2006年よりパチンコ依存症問題電話相談機関NPO法人リカバリーサポート・ネットワークを立ち上げ、代表理事を務める。

分科会 ④

てつがくカフェ ～コロナとケア～

聞く側から語り合う側へ…。高知の今とこれからの、共に助け合い、支え合って生きていくために、一人ひとりにできることを語り合います。語らいの中からありたいケアの姿やケアの未来が見えてくることに期待します。

ファシリテーター 西村 高宏

福井大学医学部准教授
「てつがくカフェ@せんだい」主宰。臨床哲学の立場から震災という出来事を自分たちの言葉で語り直す場をひらく。

グラフィック・レコーディング 外崎 佑実

NPO法人グローバル人材開発センターチーフコーディネーター
NPOで若者が対話を通して変容し続けられる学びの場をつくり、個人でグラフィック作成や議論の場を可視化する活動も行う。



てつがくカフェとは、私たちが普段当たり前だと思っている事柄からいったん身を引き離し、「そもそもそれって何なのか」といった問いを投げかけ、ゆっくりお茶を飲みながら「対話」を通して自分自身の考えをたくましくすることの難しさや楽しさを体験するものです。

すぐれもの
マルシェ
in こうち 9:30~16:45

障害のある人たちが生み出したアート&クラフトが集まります。ぜひお立ち寄りいただき、お気に入りの一品をお買い求めください。

★高知をはじめ全国の障害者施設や作業所などで作られたアートグッズや食品の展示販売。
★登壇者の書籍やケアする人のケアに関する書籍等の販売。 ★お弁当の引き換え。